

令和3年度「一般入学者選抜」
学力検査 国語科 出題方針

- 1 学習指導要領に基づき，3領域（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」）の基礎的・基本的な力を身に付けているかをみることができるようにする。
- 2 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の基礎的・基本的な力を身に付けているかをみることができるようにする。
- 3 様々な文章について，内容を的確に理解し，書き手の伝えたいことなどを考察する力をみることができるようにする。
- 4 与えられた材料について，自分の言葉で考えを適切にまとめたり，相手に的確に伝えたりする力をみることができるようにする。

令和3年度本検査「国語」学力検査について

1 問題構成

全体の構成については、昨年度の前期選抜は大問一から八までであったが、一つ減じて七までとし、昨年度の前期選抜の大問四で独立して問うていた文法などの言語事項を他の問題の中で問うこととした。それぞれの大問の内容は、次のとおりである。

大問一	:	聞き取り検査	(8点)
大問二	:	漢字の読み	(8点)
大問三	:	漢字の書き取り	(10点)
大問四	:	説明的な文章	(23点)
大問五	:	文学的な文章	(21点)
大問六	:	古典	(18点)
大問七	:	作文	(12点)

2 領域及び分野

国語の3領域及び1事項、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について、受検者の力をみることができるようにした。どの大問にも、複数の領域が関係しているが、各領域と問題との関係は、概ね次のとおりである。

「話すこと・聞くこと」	:	大問一	(8点)
「書くこと」	:	大問七	(12点)
「読むこと」	:	大問四及び五	(44点)
〔伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項〕	:	大問二、三及び六	(36点)

3 出題内容及び予想平均点

学習指導要領の趣旨に沿って、基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力等が適切にみられるようにした。

大問一（聞き取り検査）は、中学生が図書館のレファレンスコーナーを利用し、調べ学習を進めるための資料探しについて助言を受ける場面の会話を聞いて、内容を的確に理解するとともに、話し手の意図を考える問題である。

大問四（説明的な文章）(3)は、語句の意味を文脈に照らして考える問題、大問五（文学的な文章）(4)、(5)は、文章中の表現に着目しながら、登場人物の関係性の変化を考える問題であり、それぞれ理解力と表現力をみる問題である。大問五(2)では、授業でこの作品を読んだ生徒同士が意見交換を行う場面を設定し、文章中の表現に着目しながら登場人物の心情を読み解けるよう工夫した。

大問七（作文）は、日本の高校生に「自己評価」について質問した結果の資料を提示し、グラフから読みとったことを分析したうえで、自己評価を高めるために自分が取り組んでいることと、それがなぜ自己評価を高めることにつながるのかということについて、自分の考えを書く問題である。

予想平均点は50点から55点で、難易度は昨年度の前期選抜（平均46.0点）をやや上回ると考えている。

(問い合わせ先)	千葉県総合教育センター学力調査部
	電話 043-212-7588 / 7599
	FAX 043-212-7598